

国 語

問題 21 ページ～ 11 ページ

設 問 数 25

一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

美寄^{びよろ}駅のホームを出ると、幌舞^{ほろまい}行の単線は町並を抜けるまでの
あの間、本線と並走する。
ガラス張りのリゾート特急が、一両だけのキハ12形気動車を、
い
と眺め過ぐすように追い抜いて行く。
ダイヤのいたずらか、それとも都会のスキーヤーのために用意^イされた演出なのか、特急の車窓には乗客が鈴なりになって、朱^{あか}い旧国鉄色の単行ジーゼルを見物している。やがて幌舞線が左に大きくカーブを切る分岐まで来ると、特急の広いガラスごしにはいくつものフラッシュが焚^たかれるのだった。

十八時三十五分発のキハ12は、日に三本しか走らぬ幌舞行の最終だ。

「ふん、いいふりこきやがって。なんも写真まで撮ることないしょ。ねえ、駅長^{おやじ}さん」

若い機関士は雪原を別れて行く特急をちらりと振り返ってから、助手台に立つ仙次^{せんじ}を見上げた。

「なあにはんかくさいこと言ってんだ。キハ12っていったらおまえ、今どき文化財みたいなものだべ。中にやわざわざこいつを見るために内地から来んさるお客もいるべや」

「したらさ、なして^ウ廃線にすんの」

①「そりゃおまえ i とかよ、 ii とか、そういう問題だべ」

ははっ、と機関士は親指を肩の上に立てて振った。一両きりの客席に人影はなく、緑色のシートがほの暗い蛍光灯の下に並んでいる。

「へえ。美寄中央駅の駅長さんのお言葉とは思えんねえ」

「なして？」

「したっておやじさん、もともと幌舞線は輸送密度もくでもないしょ。俺、もう四年乗務してるけど、高校が休みになりゃいつもこうだべさ。だからあ、なして今さら廃線にするのかってことです」

「知るか、そんなこと。ここまでもったのは過去の実績の論功行賞だべ。おまえだって幌舞の生れなら、昔の賑わいは覚えてるべや」

②
終着駅の幌舞は、明治以来北海道でも有数の炭鉱の町として栄えた。二十一・六キロの沿線に六つの駅を持ち、本線に乗り入れるデゴイチが、石炭^エを満載してひっきりなしに往還したものだ。う
今では、朝晩に高校生専用の単行気動車が往復するだけで、途中駅はすべて無人になった。最後の山が採炭を停止してから十年が経つ。

「幌舞駅の乙松さん^{おとまつ}、今年で定年だとか言ってたけど、それでかな」

「おまえまで助役と同じこと言うんでない。札幌がそつたらことまで気を回してくれるもんかい」

キハ12は無人の北美寄駅に、お愛想^オのように止まった。

「やあや。ホームの雪はねねば。吹き溜るんだよねえ、ここ」

「もうほっとけ。出発、進行ォー！」

助手席に立ったまま、仙次はせかすように声を絞った。大げさな唸りを上げて、ジーゼル気動車は再び雪原に滑り出た。

作業外被のボア襟をかき合わせて、仙次は話の続きを思い出した。

「ひとごとじゃねえべ。乙松さんが定年になれば、来年は俺だべよ」

「おやじさんは駅ビルの重役になるしや」

「だあれに聞いたんだや、そつたらこと」

「誰もなんも、美寄の駅員で知らん者はないべき。来年の春に駅ビルが完成したら、おやじさんあっちに行くってさ」

「めったなこと言うもんでない。まだ思案中だ。内地から来たデパートの店員と一緒に、背広着てネクタイしめてお客に頭下げるなんて、あずましくねえべさ」

「だめだめ。まったく、いつまでも鉄道員^{ポッポヤ}なんだからなあ。ポッポって、SLの機関士のまんまだもんなあ」

機関士は左手を上げ、「ポッポー」とおどけて警笛^{ふえ}を引く真似^{まね}をした。

仙次はなにげなく、ペンキを何重にも塗り固めたキハ12の運転台を見渡した。

「北海道旅客鉄道」のプレートに目を止める。国鉄が分割民営化されたとき、全国のJRはみな同じような社名を名乗った。だが北海道のそれに、「鉄」という奇妙な文字が採用されたことは余り知られていない。「鉄道」ではなく「鉄道」なのだ。

多くの赤字路線を抱え、はなから困難な経営を強いられたJR北海道は、縁起をかつぐというよりむしろ祈りをこめて、「金を失う」と書く「鉄」の字を避けたのだった。「鉄道」――

④「ところで、俺、どうなるんしょ。本線に乗れて言われてもなあ」

「なして？」

「本線の新しい車両なんて、なんもわからんもの。かといって、キヨスクに行けとか、ラーメン作れとかいわれるのもたまらんわ」

「なんもなんも、このボンコツを動かせるんなら、

I

感謝しれや」

「しだって俺、時速五十キロ以上の世界って、知らんですよお。
仙次は軍手でガラスの滴を拭った。

お
でビビるもんね、きっと」

『鉄道員』浅田次郎 集英社（一九九七）、九頁～一二頁

問一 傍線部（ア）～（オ）の漢字として次の中から正しいものをそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は（1）～（5）。

（ア）単線

- (a) 性格のタンシヨ
- (b) タンキテキな計画
- (c) タンジュンな構造
- (d) タンニンの先生

（イ）用意

- (a) 午後はヨウジがある
- (b) タイヘイヨウの海
- (c) 人権ヨウゴのために戦う
- (d) ヒツヨウセイがある

（ウ）廃線

- (a) 電話線のハイセンが済んでいない
- (b) 使用できない船舶をハイセンにする
- (c) 将来はハイユウになりたい
- (d) 火山のハイが降ってきた

（エ）満載

- (a) 肉マンを買う
- (b) 一マンエンの新札
- (c) マン華鏡を買う
- (d) 今日はマンゲツ

（オ）愛想

- (a) 試合のアイテは強そう
- (b) 二人はアイシヨウがよかった
- (c) 自然をアイする人々
- (d) アイで染めた色

問二 空欄 あ お に入る語として最も適切なものを、それぞれ一つずつ選べ（各語の使用回数は1回）。解答番号は (6) ～ (10)。

- (a) ゆっくり (b) それだけ (c) なんとも (d) それが (e) しばらく

問三 傍線部①「そりやおまえ i とかよ、 ii とか、そういう問題だべ」の空欄に最も適切なものを一つ選べ。解答番号は (11)。

- (a) i 過疎化 ii 地域開発
(b) i 老朽化 ii 故障
(c) i 人材開発 ii 費用対効果
(d) i 老朽化 ii 地域開発
(e) i 輸送機密 ii 採算

問四 傍線部②「過去の実績の論功行賞」とあるが、作者はこの文章で、どのようなことを述べているのか。最も適切なものを一つ選べ。解答番号は (12)。

- (a) 全国で一番人口の多い町
(b) 鉄道の乗客が多い町
(c) 有人である北美寄駅の町
(d) 昔は有数の炭鉱の町
(e) 全国で一番雪が少ない町

問五 傍線部③「そつたらこと」とあるが、これはどのようなことを指しているか。最も適切なものを一つ選べ。解答番号は(13)。

- (a) 機関士の勤務状況
- (b) 定年後の仕事
- (c) 乗客の減少
- (d) 機関士の後継者問題
- (e) 廃線問題

問六 傍線部④「ところで、俺、どうなるんしょ。」とあるが、「俺」の言いたいことは何か。最も適切なものを一つ選べ。解答番号は(14)。

- (a) 機関士を続けることにも辞めることにも不安があるということ。
- (b) 駅員さんが退職した後、一人前の機関士としてやっていけるか心配であるということ。
- (c) 経営母体が変わるため、新たな上司とうまくやっていけるか心配であるということ。
- (d) リストラを受けた後の転職先の見通しがなく不安であるということ。
- (e) 旧国鉄の単行ジーゼルに憧れて機関士になったため、廃線が決まったことで人生の目標を見失ったということ。

問七 空欄 I に入る語として最も適切なものを一つ選べ。解答番号は(15)。

- (a) 文化財として残せるわ。
- (b) 高校生が利用するわ。
- (c) 新幹線だって運転できるわ。
- (d) 若い機関士でも運転できるわ。
- (e) 内地からお客も来んさるわ。

問八 「北海道旅客鉄道」の社名の「鉄」は、なぜ「鉄」ではなく「鉄」とされたのか、明治以降の「幌舞」の事情をふまえて、五〇字～一〇〇字で説明しなさい。解答番号は(16)。

二 二次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

先年、日本政府は富士山が世界文化遺産に登録されることを希望した。

ユネスコの判定は不可だった。なぜかというところ、日本側が三保の松原をふくんだ富士山を登録してほしいと申請したのに、三保の松原は何十キロもはなれている。富士山の一部とは認められない、という理由だった。

それに対して古来、富士山は三保の松原からの眺めがとくにすぐれていると考えられてきて、富士山と無縁ではないということ再度、判定を仰いだ。

それに対してユネスコが賛成し、三保の松原をふくめた富士山を世界遺産と認定したのである。デリケートな問題に柔軟な判断を下したのは、さすがである。

近景の富士でなく、中景の富士を認めたのは見識であった。文化についての理解の深さを思わせる。

一般に景観を愛でるに当たっては近景が考えられている。小風景では妥当でも、大きな対象では適当でないことがすくなくないが、一般の認めるところとなっていない。

富士山は近くで見るのではなく、はなれて眺めたとき、本当の美しさがわかる。そのことを日本人はともすれば忘れがちであるが、正しくない。

景観には、遠景、中景、近景の三つがあって、巨大な自然は、すこしはなれたところから見たときにもっとも美しい。そういうことを、学問のなかった昔の人は、しっかり、とらえていたらしい。

速くより眺むればこそ白妙の

富士も富士なり筑波嶺もまた

という古歌は、中景の美をたたえているのである。ユネスコの役人もその心を解したということが出来る。“速くより”というのは、ここで中景と言っているもので、遠景のことではない。大きな景観は、中景がいいのである。

①はじめのエピソードの少年も、中景の富士によって富士を知った。近景の富士ではなかった。近すぎては、本当のよさがわからない。①。そういうことは風景に限ったことではない。ひろく、音もなくはたらいっている原理であると言ってよい。

従僕に英雄なし

という。世人が評価する人物も、側近のものには、そのよさが見えないから、尊敬することを知らない。近すぎるのである。

従者でなくとも、近くにいる人たちは、すぐれた人物をすぐれていると認めることが難しい。欠点ばかり洗い出して、いい気になっている。誤解されてこの世を去る人は、古来どれくらいあるかわからない。

目の前の山は高くても、山麓にいるものには、見えない。目につくのは、石ころばかり、ロクに花も見られない。あちこち見にくい赤土が顔をのぞかせている。とても尊敬する気にはなれない。英雄は英雄になることがなくこの世を去る。そして、三十年もするとかつての人物が中景の存在となり、あちこちがかすみ、消えて、まろやかになる。^②近景の人物が中景の人物に変わる。なんということなしに、心ひかれるようになる。

ここから、歴史的变化が始まる。不幸にして、それがおこらない場合、中景になりそこなったものは、遠景になることなく隠滅する。

大悪人のように言われた政治家が、三十年、四十年すると、案外、偉大だったかもしれないなどと言われ出す。それに引きかえ、近景で羽ぶりのよかったのが、声もなく消える。近景だけ見て、わかったように思うのは、小才子の思い上りである。人間の世界には中景というものがあって、歴史も、そこから生まれる。そういうことを知らなくても、優等生として大手をふることができるから、この世はたのしい。^③

近代日本の文化人、文学者で、もっともすぐれていたのは夏目漱石であるというのが定評になりつつあるが、もともとそうであったわけではない。イギリスへ留学した漱石は英語の教師であった。留学で勉強して英文学の学者になろうとしていたと想像される。決して偉大ではなかった。

遠縁の池田菊苗が、ドイツ留学から帰国するに際して、ロンドンの漱石を訪ねた。何をしているかと問われて漱石は、十八世紀の英文学を読んでいると答える。池田は、ドイツで新しい有機化学を開拓しようとしていたのだから、漱石の志の低いのをもの足りなく思ったのであろう。西洋人のしないことをすべきだ、とはげましたらしい。漱石は あ、前人未踏の文学研究を志して、勉強をはじめた。

英文学の本を片づけ、社会学と心理学の本をあつめて勉強を始めた。二十世紀になったばかりのころのことで、日本の大学で、社会学の講座のあるところはなかった。心理学の講義のできる教授もいなかった。漱石の苦難はたいへんなものであったが、学問として文

学を考える方法論をほとんど確立した。世界に比を見ない大業である。

それをかかえて帰朝した漱石は東京大学の講義において、それを発表した。ラフカディオ・ハーンからこども向きの英文学を教わっていた学生に、この画期的文学論の価値のわかるわけがない。期せずして、漱石排斥運動がおこる。のち漱石門下になる森田草平などもそのお先棒をかついでいたらしい。

漱石の「文学論」は、外から文学に迫るもので、その先鋒が社会学と心理学だった。明治の学生にわかるわけがない。漱石は、自信を失って、教職をすてることになり、日本英文学は夢のようになってしまった。

(中略)

イギリスのI・A・リチャーズの文芸批評論も、近景として、イギリスではうまく受容されたとは言いがたかった。アメリカへ渡って、中景の業績として、高く評価され、新しい文学運動をおこすまでになった。本質的に変化したわけではない。近くにあったときには見えなかったものが、はなれて見るとはっきりしたのである。

富士の山麓で頂上を仰いでも見えないものが三保の松原まで離れて見ると、はっきり見えるのと、リチャーズの文学論にも似たところがある。日本の漱石の大業は、その中景の機を与えられないままに沈んだ例である。中景が美しく、すぐれているのである。^④ いまだ遅すぎる。

歴史は、一般に、過去の忠実な記録のように考えられているが、違って思うように思われる。

過去のある時点の近景を反映しているのではなく、すこし古く、遠くなった中景の記録である。近景より中景の方が、正確であるか、不正確であるか、の問題ではなく、中景の過去の方が、もとの過去より、“おもしろい”からである。歴史は、もとの過去そのままを反映するのではなく、三十年、五十年の過去を反映しているのである。歴史には、中景の美学がしっかりはたらいっている。

われわれは、もっと、中景の美学を深化させる必要がある。

『伝達の整理学』外山滋比古 ちくま文庫(二〇一九) 四七頁～五四頁部分抜粋)

問一 傍線部①「そういうことは風景に限ったことではない。」とあるが、このことが次のような文章で説明したときに、空欄に入る語として、最も適切なものをそれぞれ一つ選べ（各語の使用回数は1回）。解答番号は(17)～(18)。

筆者は大きな風景を眺める場合、眺める位置からの実際の距離を問題にしており、その点では、Aを捉える事と言える。また人物を、近くから見るとどうかという点でも、A的といえる。しかし、筆者は実際の距離だけのことは捉えておらず、そこにはBが関係していることを論じている。

- (a) 感覚 (b) 空間 (c) 深化 (d) 価値 (e) 時間

問二 傍線部②「近景の人物が中景の人物に変わる。なんということなしに、心ひかれるようになる。」とあるが、これはなぜか。最も適切なものを一つ選びなさい。解答番号は(19)。

- (a) 世人が評価する人物の、新たな事実を知った為
 (b) かつての人物をはなれて眺め、よさがわかるようになる為
 (c) ユネスコの役人が富士の古歌の中景の美をたたえた為
 (d) 目の前の山は高くても、花が咲いていることに気づいた為
 (e) 中景になりそこなったものは、はかなくこの世を去る為

問三 傍線部③「たのしい。」とあるが、「たのしい」に込められている筆者の考えとして、最も適切なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は(20)。

- (a) 皮肉 (b) 楽観 (c) 積極的受容 (d) 興味本位 (e) 希望

問四

空欄

あ

に入る四字熟語として、最も適切なものを一つ選びなさい。解答番号は(21)。

- (a) 臥新嘗胆 (b) 心機一転 (c) 一朝一夕 (d) 起死回生 (e) 虚心担懷

問五

傍線部④「いまでは遅すぎる。」とあるが、これはどのようなことを述べているのか、最もあてはまらないものを一つ選びなさい。解答番号は(22)。

- (a) 漱石の「文学論」は、本来ならもっと評価されるものであったのかもしれないが、もうそれもわからなくなった。
(b) 漱石の成果について、いまだら評価をするとしても、もっともよく見える中景の時期は逸してしまっている。
(c) 漱石はもう亡くなってしまっていて、漱石の「文学論」をいまだら評価しても、漱石にその評価は届かない。
(d) 漱石の偉業は、中景になりそこねてしまったが、中景から捉えられていればその評価がわかったであろう。
(e) 漱石が講義した「文学論」の価値がよくわからなかった当時の大学生の評価が長く残り続けた。

問六

筆者の歴史の捉え方として、最も適切なものを一つ選びなさい。解答番号は(23)。

- (a) 三十年後、五十年後から見た歴史は、中景としての見方であると言える。
(b) 三十年前、五十年前の歴史は、歴史としておもしろいと言える。
(c) 三十年、五十年という年月がたてば小人物も英雄になると言える。
(d) 歴史を捉えるには、近景より中景の方が正確であると言える。
(e) 過去の歴史を忠実に記録したものは、歴史ではないと言える。

問七 中景がいいという筆者の主張として、最も適切なものを一つ選びなさい。解答番号は(24)。

- (a) そもそも、ものごとには変化しない本質的な価値があり、その評価には遠近は関係しない。
- (b) 富士山のような大きな山の景色は、山麓から山頂を眺めてもその価値がわからずまらない。
- (c) 「従僕に英雄なし」というが、評価する力のない小才子は、はなれて人を見なければその価値がわからない。
- (d) 大悪人のような政治家も、三十年、五十年たつと、余計なものが落とされて、いい人に見えるようになる。
- (e) リチャーズの文芸批評論のように、近景で評価されずとも、中景なら評価される可能性のあるものがある。

問八 漱石は、なぜ社会学と心理学の本をあつめて勉強を始めたのか、五〇字～一〇〇字程度で説明しなさい。解答番号は(25)。